



1 校歌2番にある「燈台（とうだい）」とは？

校歌は昭和36年2月20日（今から53年前）に制定されています。創立80周年記念式典の中で、当時の児童約360名が「朝夕あおぐ〜♪」と声高らかに新しい校歌を歌いあげたと想像できます。

昨年、ヒストリアの第2号で、歌詞について下のような解説を加えました。おぼえているかな？

田検小学校 校歌

作詞 福岡正信
作曲 三界実義

- 1 朝夕仰ぐ 奄美岳 (S57.2.25 から「湯湾岳」)
みどりに映ゆる 学び舎に
強く 正しい 心もて
学ぶ われらの 夢清く
希望に燃える 田検校

【訳】

朝夕 あおぎ見る 湯湾岳
そのみどり色は 校舎にも 映って 美しい
強く 正しい 心をもちなさい
学ぶ わたしたちの 夢は純粹で清らかだ
未来への希望にもえる 田検小学校

- 2 波静かなる 焼内湾
はるかに望む 燈台の
明かき光を 範として
励む われらの 意気高く
理想は薫る 田検校

【訳】

波のしずかな 焼内湾
はるか遠くに見える 燈台の
あの明るく輝く光を 手本にして（見習って）
はげもう わたしたちの やる気をもって
理想とする姿の 実現をめざす 田検小学校

- 3 とどろき川の 真清水の
尽きせぬ流れ たたえつつ
若き眉あげ むねはって
伸びる われらの 限りなく
活力あふれる 田検校

【訳】

とどろき川の 美しく清らかな水は
たえまなく流れ いっぱいに水をみたしている
若々しい眉をきりっと上げ むねをはって
成長する わたしたちに 限りはない
いきいきとした 元気あふれる 田検小学校

2 曾津高埼灯台（そっこうさきとうだい）ではないか！

2番の「はるかに望む 燈台の…」とはいったいどこの燈台なのでしょう？

それは「曾津高埼灯台（そっこうさきとうだい）」のことではないかと思われます。今の瀬戸内町西

古見の先にあり（当時は宇検村に含まれていた場所）、奄美大島の最西端に位置する灯台です。奄美群島で一番古い灯台で、明治29年11月1日に台湾航路用の灯台として軍事費により建設されたようです。



今でもこの灯台まで行くには、かなり険しい道のりのようです。それにしても、118年も前に断崖絶壁の岬に、これほどの灯台を造った人々の決意や苦勞、勇気や努力に敬意を表したい気持ちです。

当時は光をとすために石油を使用したようです。昭和20年に爆撃を受け、灯台や建物は壊滅的な打撃を受けたそうです。その後、電気を使って光りをとすようになり、現在の灯台は昭和63年に建て替えられたそうです。平成17年11月からは、太陽電池を電源とする機械に交換され、クリーンエネルギーを使用して地球温暖化対策も取られているそうです。

この灯台が今から118年前、行き交う船が安全に航行できるようにと、奄美群島内で最初に光をともしたとき、当時の宇検村の人々はもちろん、奄美本島の多くの人々が、喜びにわいたことでしょう。

夜空に輝く灯台の光は、奄美の明るい未来をともす光として、多くの人々の心に勇気と希望の明かりをともすシンボルになっていたに違いありません。

実際には、田検から曾津高埼灯台の光を直接見ることはできなかつたと思われませんが、未来に生きる子どもたちのために、田検小学校の校歌の中に歌い込まれたのだと思います。　　（文責：福田裕生）